

かいぼりで発芽!

イノカシラフラスコモ

再発見物語

東京・井の頭池周辺で発見されたイノカシラフラスコモ。絶滅したと考えられていましたが、かいぼりによって59年ぶりに復活しました。日本産の車軸藻類には珍しい雌雄異株で、両方の株が同所になれば次世代の存続が難しい種類です。井の頭池は本種の世界で唯一の群生地です。

車軸藻類は、池や湖の底を覆い泥が舞い上がるのを防ぐ働きをしていると考えられますが、水域の埋め立てや水質悪化などによって生育地が減少しています。日本で確認されている80種のうち、イノカシラフラスコモを含む約8割の種が環境省レッドリストに掲載されています。

イノカシラフラスコモ

Nitella mirabilis var. *inokasiraensis*

1 1957年、井の頭池と神田川上流部で未知の車軸藻類が発見された

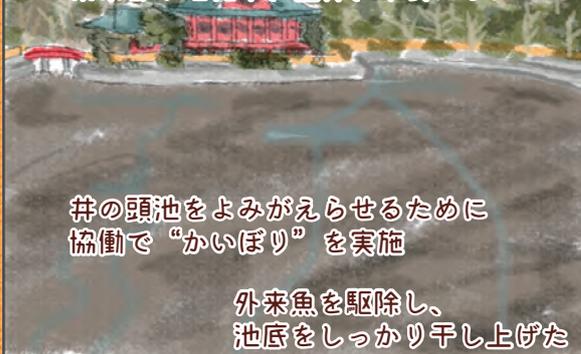


2 ところが1963年…
湧水が涸れて池が干上がってしまう



イノカシラフラスコモや多くの水草が消失し、人々の記憶から消えていった…

3 時は流れ、東京都や地元市、団体、市民たちが



4 そして2016年の春…
池底の卵胞子からイノカシラフラスコモが発芽!



補足

発見者は藻類学者の加崎英男博士。1965年に新種として記載された。1986年に千葉県市川市のじゅん菜池緑地、2019年に房総丘陵でも発見されている。

地下水の大量汲み上げにより地下水位が低下したのが主な原因。現在も季節によっては池底から湧水が出ている。

池には井戸水が補給されたが、水質の悪化、コイヤソウギョの放流などによって貴重な生態系が失われた。それから半世紀以上、水草が復活することはなかったのである。

かいぼりでは外来魚を駆除できるほか、底泥を空気にさらすことによって水質が改善される。冬季の干し上げによる乾燥や低温などの刺激で、水草の胞子や種子が発芽する効果も。

2016年6月に東京都がイノカシラフラスコモの復活を発表し、全国に報道された。

世界でここだけ!
フラスコモ
写真館



イノカシラフラスコモ全体像
提供：加藤将氏（新潟大学）



雄株（左）と雌株（右） 提供：加藤将氏（新潟大学）



池底の群落 提供：東京都西部公園緑地事務所



池底での生育の様子
提供：東京都西部公園緑地事務所

藻体は繊細で柔らかい

フラスコモ豆知識

その壱 フラスコモってどんな水草？

シャジクソウ類は、藻の仲間ですが種子植物のように複雑な形をしています。輪生している枝葉が車軸のようです。代表的なグループにシャジクモ属とフラスコモ属があります。生卵器、造精子器という生殖器官を持ち、卵孢子で殖えます。フラスコモの名前は生卵器の形が実験器具のフラスコに似ていることからきています。



Wood (1965) より引用



イノカシラフラスコモ（雌株）。生卵器の中に受精後黒くなった卵孢子が見える。

提供：東京都西部公園緑地事務所

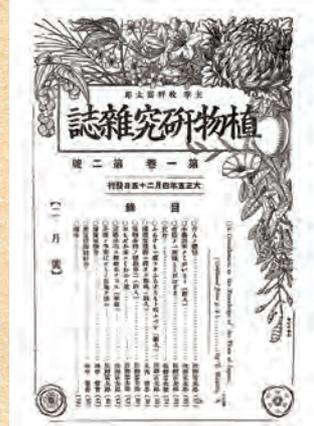
その弐 昔は「フラスモ」だった？

大正時代、植物学の世界ではフラスコモとフラスモという名称が混在していました。これを整理したのが植物学者の牧野富太郎博士。江戸時代にフラスコモと記されていたものが誤ってフラスモとされたのが混乱の始まりであると、自らが編集する学術誌で「須ラクふらすこもト改ムベシ」と主張しました。

参考 牧野富太郎（1916）植物研究雑誌 第1巻第2号

植物研究雑誌 The Journal of Japanese Botany

<http://www.jibotany.com/>にて該当ページを読むことができます。



植物研究雑誌 第1巻第2号より転載

かいぼりとは？

ため池を維持するために、排水して泥を流し、堤体などの施設を乾かしたり補修したりする作業。水質改善や外来魚防除に効果があることが知られるようになり、公園等で行われる例が増えています。



池底の干し上げ

そのきっかけと言われているのが都立井の頭恩賜公園の井の頭池かいぼりです。大勢の市民や関係機関との協働によって行われ、水草の復活、透明度の改善、在来魚や水鳥の回復といった成果が確認されました。かいぼりを行うと池の環境が改善されますが、その効果は永久ではありません。そのため井の頭池ではこれまでにかいぼりが3回行われており、今後は数年おきに繰り返して池の環境を良好に保っていくこととされています。



市民参加による魚捕り



水草発芽調査のための底泥採取